



元気っ子

No 340 ながさわ保育園

園長 中瀬弦偉

11月14日(金)に椿会館にて行わせて頂きました「こっそり観てみよう子どもの姿」上映会と「子育て講演会」には多くのご参加を頂きありがとうございました。講演後の質疑応答やアンケートのご回答の内容など、非常に子育てに対して意識の高い保護者様が多いことに感動したというのが私の率直な感想でした。講演会の内容についてのレジュメが欲しいなど、嬉しいご意見も頂いており、対応を検討しておりますのでしばらくお待ちください。また上映したムービーについても様々なご意見を頂きました。来年度の作成に向けて改善を目指しますので是非来年度もご参加頂けたらと思います。

さて今月は「部活動の地域移行」について少しお話をていきたいと思います。まだ小さいお子さんをお持ちの保護者の皆様にはもう少し先のことかと思いますが、この議論の進め方はすべての大人に考えていただきたいと思います。

まず、この「部活動の地域移行」という課題がでてきたのは、働き方改革や教員の長時間労働解消という社会問題が発端だったかと思います。そこで多くの自治体が、学校での部活動を廃止し、地域の活動へと移行し、教員の負担を軽減する方向性が見えてきました。恐らく、働き方改革と教員の長時間労働解消については一定の効果は望めるのではないかと思います。しかし、そこに「子どもの想い」が置き去りにされているような気がしています。

日本では令和5年4月より「子ども基本法」が施行されており、そこで宣言されているのは「子どもまんなか社会の実現」です。そして、子どもの権利条約第12条では「子どもは、自分に影響を与えるすべての事柄について、自分の意見や気持ちを自由に表現できる意見表明権」を保障しています。ここをしっかりと踏まえて「部活動の在り方」が議論されていくことが大切ではないかと思います。

取り組みの一例にはなりますが、熊本市が以下のような対応を進めています。

- ① 希望しない教職員は部活指導を行わなくてよい。
- ② 部活動指導を行う教職員には、平日も含めて時給1,600円を給付。
- ③ 休暇を取りやすい環境を整える為に部活動指導員を拡充し、各部3人~5人で指導する。
- ④ 部活動を行う生徒からは月額3,000円程度負担してもらう。

といったものです。熊本市の遠藤洋路教育長は、部活動検討委員会において「国は地域移行すると言っているが、子どもたちにとって何が良いのかを考えてほしい」「小学生にとって放課後の居場所は学童であるが、中学生にとっての居場所は部活動である。居場所を安易に奪ってはいけない」といったことを述べたそうです。

子どもにとって大切な部活動を学校からなくしてしまうのではなく、残しながら課題を解決していく良い事例だと思います。部活動から学ぶこともたくさんあるはずです。ながさわ保育園の保育理念は「子どもの最善の利益の保証」です。「子どもにとってどうなのか」を常に念頭におきながら社会が動いていくことを願っています。